

Stack2images ver2.0

Stack2images について

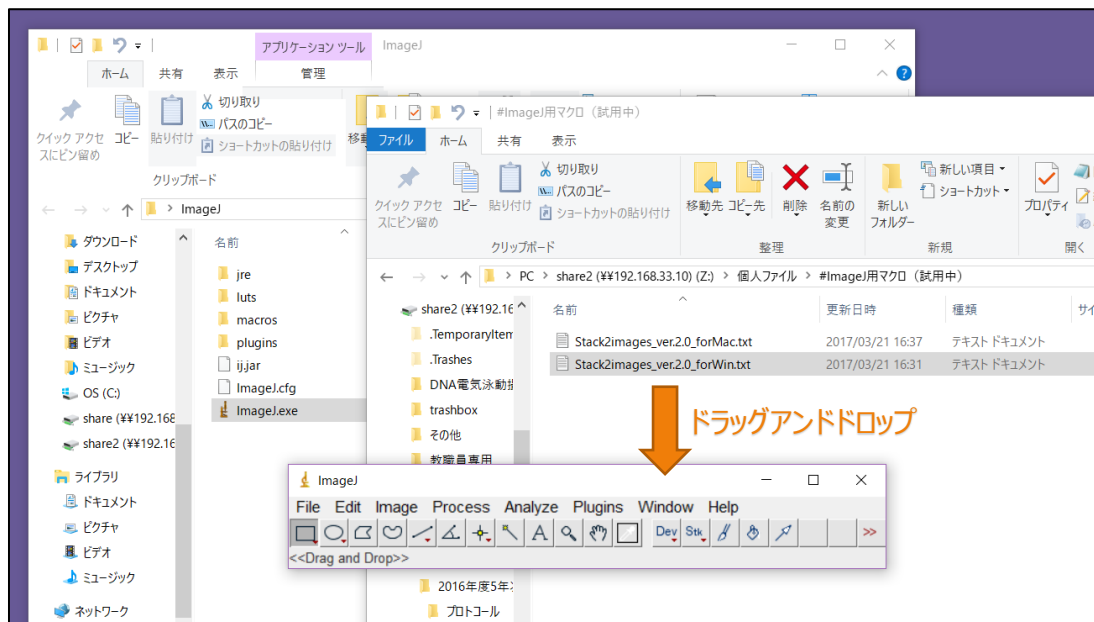
Tiff 画像変換をもっと楽にしたい。――

Stack2images はそんな思いから生まれました。輝かしいデビューから 1 年余り。あの Stack2images がさらなる進化を遂げて帰ってきました！新たな機能満載の Stack2images ver2.0、満を持しての登場です。

Stack2images ver2.0 (S2v2) は、ImageJ による Tiff の階調設定、8bit への変換、Stack の分割・色付け・命名・保存、これらの作業を、あなたに代わって一括処理してくれる、夢のようなバッチスクリプトです。何十枚の Tiff だって、これがあれば、もう恐れる必要はありません。その革新性について、ここで長々と語るつもりはありません。まずは使ってみてください。きっと、忘れられない体験になるでしょう。

1 使い方

- ① **起動** : ImageJ を起動します。
- ② **D & D** : Stack2images ver2.0 を ImageJ にドラッグアンドドロップします。

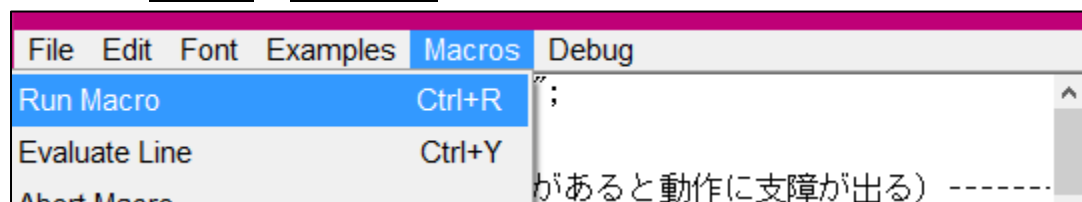


※お使いの OS に合わせて Windows 版と Mac 版を使い分けてください。それぞれに互換性はありません。

※必ず ImageJ を起動させてからドラッグアンドドロップしてください。

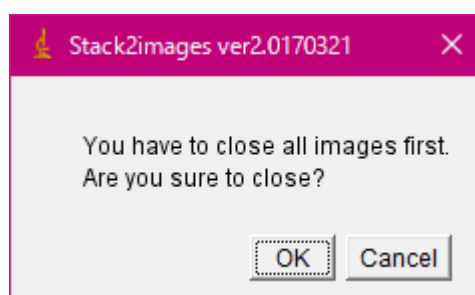
③ **実行** : Stack2images ver2.0 を実行します。

➤ メニューバーの **Macros** -> **Run Macro** をクリック



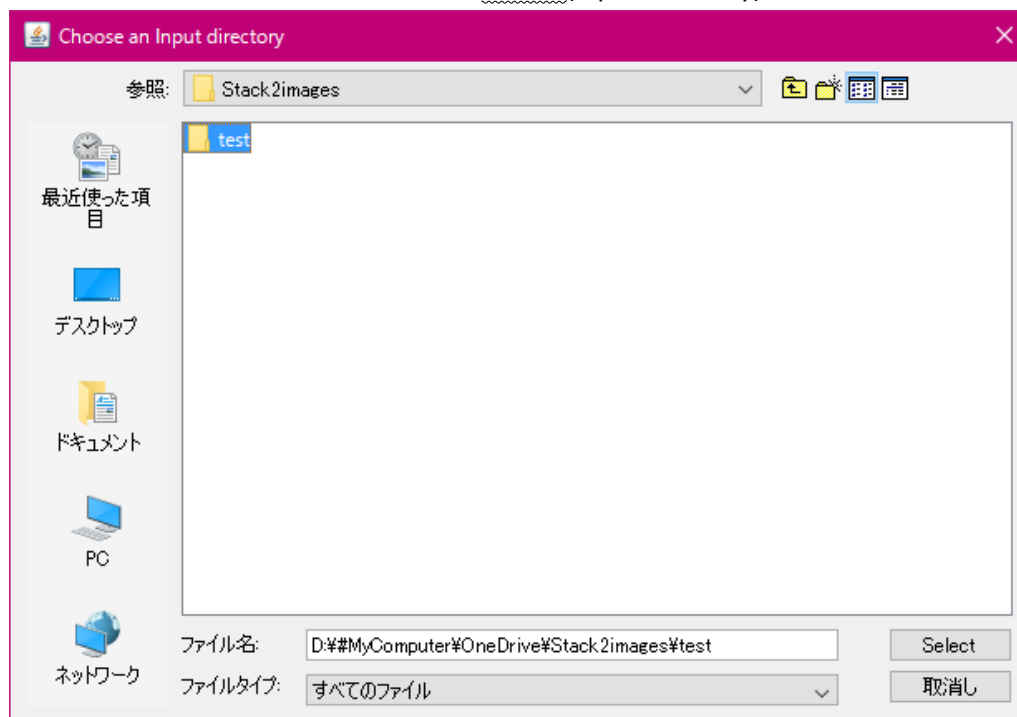
➤ または、キーボードで **Ctrl** + **R**

※ImageJ が他の画像を開いている場合、S2v2 によって強制的に閉じられます。作業中のときは注意してください。



おっと、作業中でしたか？ 安心してください。
S2v2 は閉じてもよいか事前に確認をとります。

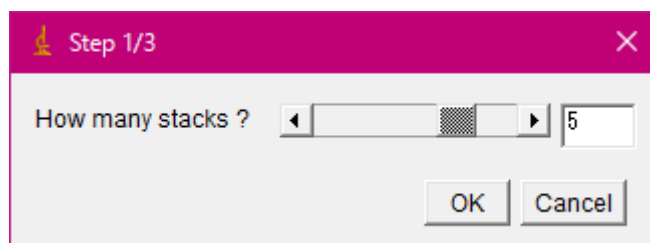
④ **フォルダ選択** : 変換したい Tiff が保存されているフォルダ(Input directory)を選択します。



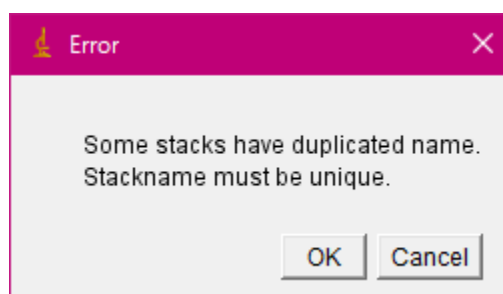
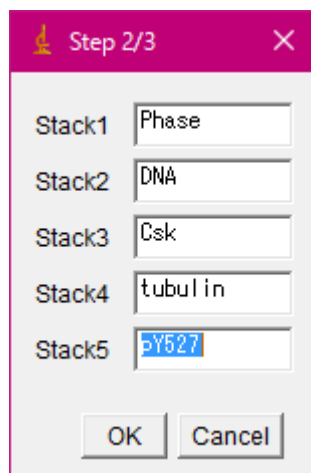
※書き込み可能なフォルダを選択してください。(読み込み専用フォルダでは正常に動作しません。)

※Input はローカルに設置することをお勧めします。ネットワーク HDD ではかなり低速になります。

- ⑤ **Stack 数の設定**：はじめに、変換したい Tiff の Stack 数（2 ～ 6）を設定します。



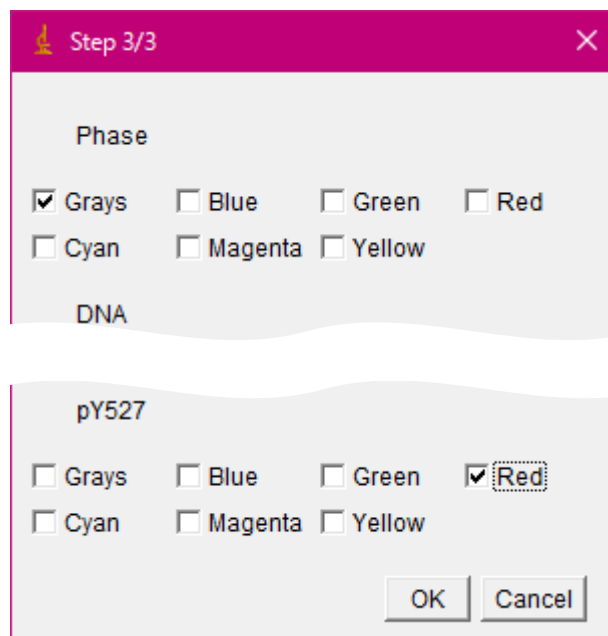
- ⑥ **名前の設定**：次に、各 Stack に名前を付けます。ただし、同じ名前を複数設定することはできません。

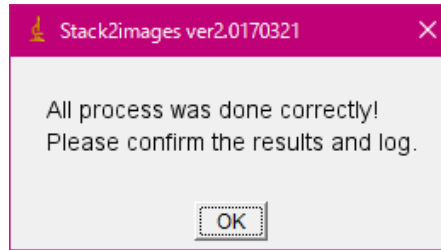


名前が重複していた場合はエラーになり、
左の画面が再度表示されます。

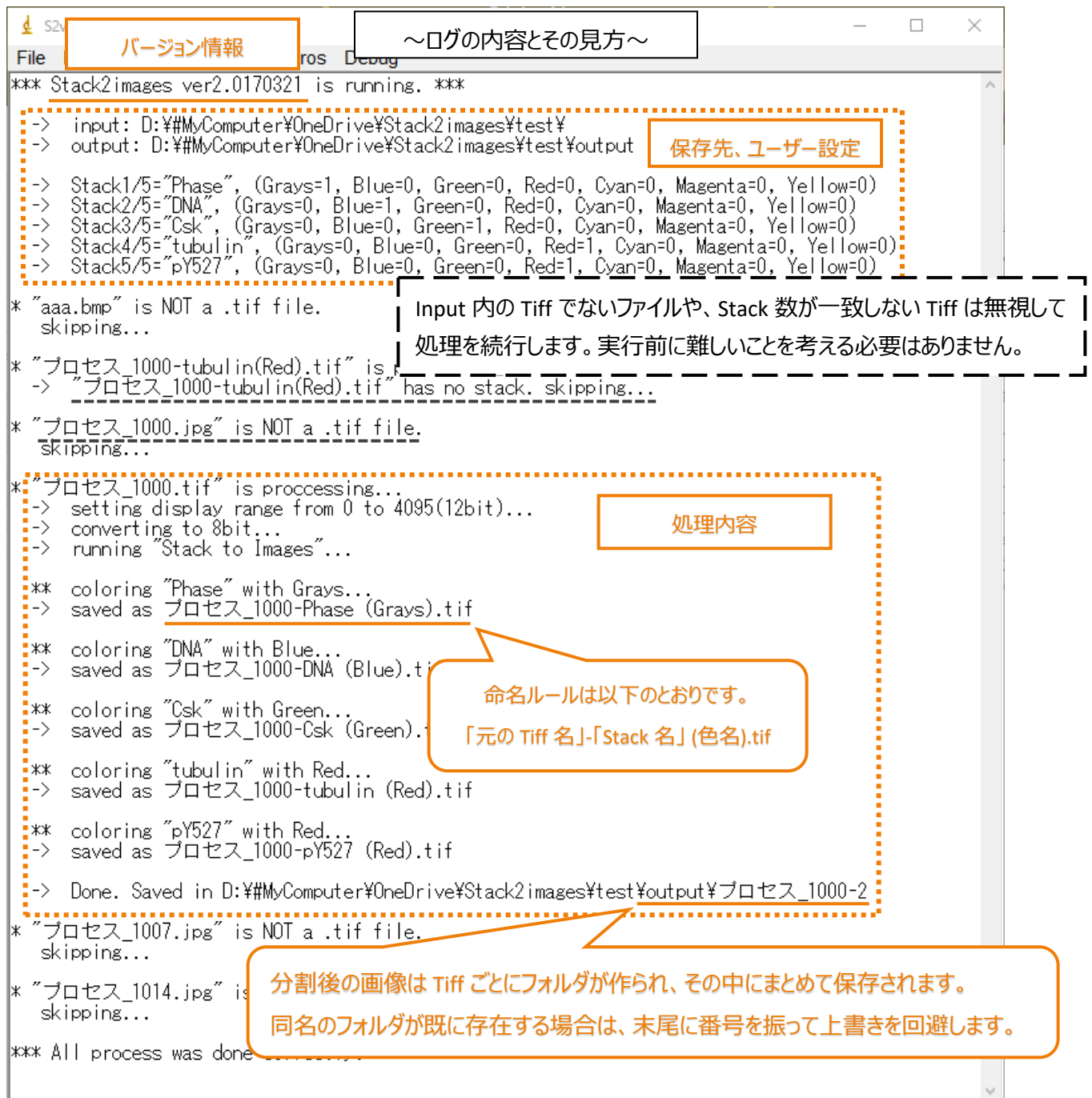
※Stack の順番は Tiff に格納されている順番に従ってください。

- ⑦ **色の設定**：最後に、各 Stack の色を設定します。選べる色は 7 色あり、複数選択もできます。
OK を押すと、処理がはじまります。あとはただ待つだけです。





- ⑧ **完了**：メッセージが表示されたら、処理は完了です。念のため、ログと生成物を確認してください。
ログと変換後の画像は input directory の中に作られた「output」というフォルダに保存されています。



2 確認方法
